

令和5年度第1回鈴鹿市国民健康保険運営協議会 会議録（要旨）

日時 令和5年8月3日（木） 午後1時15分～午後2時15分

場所 鈴鹿市役所12階 1201会議室

出席委員 11名

【被保険者代表委員】 油井 泰身，黒田 裕子，藤井 さゆり

【保険医等代表委員】 尾崎 郁夫，長谷川 豊，若生 美樹

【公益代表委員】 藪田 啓介（会長），石田 秀三（会長職務代理者），
加藤 公友

【被用者保険等代表委員】 内藤 誠，大西 伸幸

欠席者 1名

【被用者保険等代表委員】 辻 寛

事務局 5名

保険年金課長 高崎 知奈美

管理G 主幹兼GL 川合 千晶

資格給付G 主幹兼GL 富尾 文哉

保険料G 副主幹 田中 浩司

管理G 白倉 剛大

傍聴者 なし

1 開会

- ・開会の挨拶
- ・杉野副市長あいさつ（公務により退席）
- ・資料確認
- ・出席人数の報告
- ・会議の公開方法と会議録の作成について（意見なし）

2 委員の委嘱

- ・委嘱人数の報告（12名中5名）
- ・委員自己紹介
- ・欠席者報告
- ・事務局自己紹介

3 会長及び会長職務代理者の選任

- ・会長に藪田委員，会長職務代理者に石田委員を選任

4 会長挨拶

- ・審議事項について
- ・会議録署名者について

5 議事

- ・令和 4 年度鈴鹿市国民健康保険事業特別会計決算について

【事務局】

資料 1-1, 資料 1-2 に基づき説明

(質疑)

【A委員】

令和 4 年度の収支決算は、1 億 8,000 万円の黒字になっており、基金が増え続けている。令和 4 年度に保険料の引き下げを行っても黒字になっていることから、さらなる引き下げを検討してはどうか。

基金については、来年度以降の見通しを立て、どの程度基金を保有すれば良いか検討すべきでは。

また、物価高騰が続いている状況から、被保険者に対する方策を考えるべきではないか。

【事務局】

保険料率は県内でも 2 番目に高く、被保険者の負担は認識している。

令和 4 年度は、県への納付金下がったこともあり、保険料率の引き下げが可能であった。しかし、収納率は、当初の目標値である 92%を下回る 91.83%となり、厳しい現状である。

基金については、令和 5 年度の予算編成において事業費納付金の増額の影響を受け、歳出超過となったことから、本来であれば保険料率を引き上げて歳入を確保する必要があるが、基金を活用し、歳出超過へ対応した。そのため、令和 5 年度当初の基金残高は 15 億 8,300 万円ほどになる。国からの予算編成に係る通知でも、出来る限り基金の確保に努めるよう示されていることから、安定的な財政運営のため、基金や決算剰余金の活用など全体の収支バランスを見ながら基金の保有適正額について、慎重に考えていきたい。

被保険者に対しては、健康増進や病気の予防についての取組みに対する基金の活用や収支バランスを見定めた上での保険料率の設定を考えていきたい。

【A委員】

健康増進事業を行うのは大事であるが、一番の問題は基金が増え続けていること。

決算剰余金を活用すれば、基金を取り崩す必要はないと思われる。

色々な可能性があると思うので、令和5年度の推移を見ながら6年度の予算編成の際に検討していただきたい。

【事務局】

被用者保険の適用拡大に伴う被保険者数の減少などを考慮し、基金の活用や保険料率の設定について考えていきたい。

【B委員】

三重県の運営協議会において、今後は県内の保険料率を統一していくと伺ったが、鈴鹿市はどのような考えか。

【事務局】

三重県内であれば、どこに住んでいても、同じ世帯構成、同じ所得水準であれば、同じ保険料が賦課されることを目指して、保険料率の統一に取り組んでいるところである。しかし、県内各市町の人口割合や医療費水準、所得等は違うことから、現時点では、事業費納付金の算定ベースで保険料率の統一を図っている段階である。

事業費納付金が示される際に、標準保険料率が示され、各市町がそれに沿う形で保険料率を設定することが望ましいとされている。

鈴鹿市は、標準保険料とさほど乖離がないため、医療費の適正化を図りながら、保険料率の統一に取り組んでいきたい。

【C委員】

居所不明者の実態調査について、職権消除の件数は。

【事務局】

手元に資料が無いため、確定した件数は申し上げられないが、5、6名であったと記憶している。

⇒（挙手全員により承認）

6 その他

- ・ 次回の運営協議会の開催について説明

（意見・質疑等）

【A委員】

基金の動向や今後の財政のあり方等について、資料を作成してほしい。

【会長】

A委員の発言に関しては、要望事項とする。

【A委員】

鈴鹿市内におけるマイナ保険証の対応普及率について伺いたい。

【事務局】

厚生労働省発表の令和5年5月31日時点における普及率は、カードリーダーの申込み率は96.5%、運用を開始している医療機関等は85.5%。三重県内では3番目に高い普及率である。

【A委員】

それほど高い普及率なのか。

【C委員】

7割ほどは導入している印象。機械が届かず設置できていないところもあると思われる。

【D委員】

接続等のトラブルがあり、設置できていない医療機関もある。

【会長】

閉会の挨拶